

研究紀要

# 北の沢

第34号

令和6年度

秋田県立西仙北高等学校

# 目 次

<巻頭言>	校 長	栗 原 渉
<研究授業記録>		
国語科（言語文化）	教 諭	石 山 伸 介
理科（化学基礎）	教 諭	藤 田 綾 子
保健体育科（体育）	教 諭 臨時講師	飯 田 哲 也 大 川 佳 成
研究協議会記録（3教科・全体会）		
<教職研修>		
実践的指導力向上研修を終えて	教 諭	飯 田 哲 也
<研修報告等>		
インターンシップ実施報告	教 諭	佐々木 満
特別支援に関する職員研修 「特別な支援を要する生徒への具体的な支援方法」	養護教諭	湯 澤 美千代
ストレッチ講座 「QOL 生活の質向上」	臨時講師	大 川 佳 成
防災に関する職員研修	教 頭	羽 深 美希子
<地域探究報告>		
科目「地域探究Ⅰ」報告	教 諭	武 田 隼 人
科目「地域探究Ⅱ」報告	教 諭	小 西 さなえ
科目「地域探究Ⅲ」報告	教 諭	飯 田 哲 也
<編集後記>		

令和6年度研究紀要「北の沢」が刊行されることになりました。寄稿いただいた先生方と編集に携わっていただいた先生方に感謝します。本校の先生方には今年度の取組と成果を共有して、創造的思考と自立的実践の高まりにつながることを大いに期待します。

そもそも研究紀要は、当該年度を取組や成果をきちんとまとめておくことで、次年度以降に一層充実した取組とするための貴重な記録集でもあります。そうした観点も含めて編集された今回の紀要は、主に授業研究、各種研修、地域探究の各実践に基づいた3つの項目でまとめられています。それらの実践は「研究」「研修」「探究」の3つのキーワードで括ることができます。ただ3つのキーワードは、似ている言い回しの用語ですが、実はその実践の中身は大きく異なるものがあります。

「研究」については、新学習指導要領に基づく授業が3年目に入り、観点別評価も導入され、本校でも全教科で評価規準を明確にした特色ある取組と研究がなされました。特に今年度は、研究主題を「ユニバーサルデザイン（UD）の視点を取り入れた探究型授業構成の工夫」とし、授業に集中させる工夫や理解につなげる工夫等、本校独自の「西高スタンダード」に基づくより望ましいUDのあり方や、探究型授業につながるICTの効果的な活用方法等を研究してきました。研究を進めるに際し、小規模校の特性上、各教科担任が一人ないしは二人であることから、教科内での組織的な指導力向上を図ることには難しいものがありました。そのため、全教員による相互授業参観のあり方の工夫、教科横断的な指導法の工夫、少人数授業の特性を活かした効果的な指導法の工夫等、多角的な視点からの研究が行われ、その結果等が今回まとめられています。

「研修」については、令和5年度以降、研修履歴の記録作成が義務づけられ、個々が必要とする項目を明確にして資質向上につながる研修が行われています。今年度の各教員の研修履歴を確認すると、研修項目が非常に多岐に渡っていたり、研修形式もオンラインを活用した研修が増えるなど多様化しています。しかも研修内容も工夫され、実践的な内容となっています。ところで、充実した研修に水を差すようですが、『効果10倍の〈学び〉の技法—シンプルな方法で学校は変わる！』（吉田新一郎・岩瀬直樹著、PHP新書）という本には、実に興味深い10個の「嫌な研修」が取り上げられています。それは例えば、形式的なもの、押しつけられたもの、理想論で終わるもの、何のためにやっているか分からないもの、本音で話し合うことができないもの等です。好ましいプラスの側面で捉えがちな研修を、この本ではあえて逆説的に否定的に捉えていることから、この本を通して本来価値ある研修について再確認する機会にできます。「好きな研修」「受けたい研修」「意義ある研修」とはどういうものかを考え、今後校内研修を企画する際には、こうした悪い10項目に当てはまらないよう注意を払うことが求められます。

「探究」については、近年多くの学校で取り入れ効果を上げている学びの形態です。本校でもこれまで探究型の授業を全教科で推進してきました。また、3年前からは学校設定教科として「地域探究」を導入しました。この特色ある教科は、本校周辺の地域を学びのフィールドに置き、生徒の主体的な学びを尊重しながら年次進行での系統的な学習となっています。今年度、3年生はグループ毎にテーマを決めて探究してきた成果を、はじめて校外の方々にも発表する機会がありました。取組の詳細は別冊の報告書にまとめられておりますが、探究という側面に焦点を当てると、地域の現状と課題を探ること、現地視察や聞き取り等を通して具体的に探ること、意見交換を深めて互いの考えを探ること、最良な発表資料と原稿のまとめ方を探ること、秋田大学の先生を含め多くの外部講師の方々からの指導を受けて新たな視点を探ること等、実に多様な探究活動が行われました。それらすべての探究活動に本校の先生方にも関わっていただきました。地域探究の教育的効果や意義を大切にしながら、次年度以降も一層の充実した学習につなげてほしいものです。

以上、この研究紀要にまとめられた「研究」「研修」「探究」の3つの言葉にこだわり考えを述べました。今後もそれぞれの言葉が持つ意味と違いを認識して、特色ある実践を重ねて、学校が持つ教育力を一層向上させていくことを期待します。

## 国語科「言語文化」学習指導案

実施日時：令和6年10月18日(金)  
6校時

会 場：本校（102教室）

ク ラ ス：1年A組（4名）

指導者名：石山伸介

1 単元名 物語を受け継ぐ  
羅生門  
(『新編 言語文化』 大修館書店)

2 単元の目標

- ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解できる。[知識および技能] (3)ア
- ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。  
[思考力、判断力、表現力等] (読むこと)オ
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。[学びに向かう力、人間性等]

3 単元設定の理由

- (1) 生徒観 4人という少人数のため発言する機会が多い。読解力や思考力・表現力は同年代と比較すると弱い。
- (2) 教材観 小説としての完成度が高い。人間の倫理観について学ぶ機会となることが期待できる。
- (3) 指導観 登場人物の行動や心情の変化に対する生徒の疑問や興味・関心を活かしたい。

### 4 単元（題材）の配当計画と評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<p>・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。</p>	<p>・作品の内容や解釈を踏まえ自分のものの見方、感じ方考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。</p>	<p>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p>

5 単元の計画

	読解	4時間	第一段落（1時間） 第二段落（1時間） 第三段落（1時間） 第四段落（1時間）
	創作	2時間	ストーリー制作（1時間） スライド制作（1時間）
	発表	1時間	作品発表（1時間・本時）

5 本時の計画（7 / 7 時間目）

(1) 本時の目標

登場人物のその後やこれまでなど、本文にない部分について想像し、Google slideを用いて発表する。

(2) 展開（評価の観点 A知識・技能 B思考・判断・表現 C主体的に学習に取り組む態度）

段階	学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の流れを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇授業の全体を見通せるようにする。</li> <li>◇発表の際の留意点を伝える。 (聞き取りやすさ、抑揚、リズム、強弱)</li> </ul>
展開 37分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Google slideを用いて、自分の創作した作品を発表する。</li> <li>・ 発表に対しての質疑応答を行う。</li> <li>・ 他人の発表に対しての評価と感想を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇一人ずつ前に出て、発表を行わせる。</li> <li>◇質疑応答では、全員が発言するよう促す。</li> <li>◇発言しやすいような雰囲気作りを心がける。</li> <li>◇皆にわかりやすい発表ができるよう促す。</li> <li>◆作品の正確な読解を土台とした、発想力豊かな作品ができたか。【B】</li> <li>◆皆にわかりやすいような発表ができたか。【B】</li> </ul> <p>主発問：① ○○さんの発表への質問をどうぞ。 ② ○○さんの発表の良かったところは           どういうところですか。 ③ それはなぜですか。</p>
まとめ 8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の授業についての「まとめワークシート」に記入する。</li> </ul>	

## 理科「化学基礎」学習指導案

実施日時：令和6年10月18日(金)  
6校時

会 場：本校(化学実験室)

ク ラ ス：3年A組(18名)

指導者名：藤田 綾子

1 単元名 粒子の結合(イオン結合とイオンからなる物質)  
(『新編 化学基礎』 数研出版)

2 単元の目標 イオンがどのような力によって結合するのかを理解し、イオンからなる物質の表し方やその性質について理解する。【A】実験を安全に行い、イオンの組み合わせによる違いについてまとめる。【B】イオンの組み合わせによってできる物質を日常生活と結びつけて探究できるようになる【C】

3 単元設定の理由 (1) 生徒観  
・これまで、イオン式やイオンからなる物質の化学式を学んできた。知識を身につけるのに時間がかかる生徒が多いが、生徒同士のクイズ形式にしたり、教師による口答チェックテストなどを行ったりして、全員が確実に覚えられるように授業を行った。前時までは教科書の写真での説明等が多かったが、本時では実際に試薬を用いて実験することにより、物質が溶解する様子や、沈殿する様子を観察し、その違いについて理解を深めさせたい。

(2) 教材観  
・身のまわりに数多くあるイオンからなる物質の性質を、実験を通して理解することによりイオンに関する知識を深め、物質の結合に関する興味・関心を高める。

(3) 指導観  
・教科書で学習する物質も実際の生活の中で様々な用途に使われていることにも触れながら授業を行う。水に溶ける様子を観察するのだが、「水に溶ける」という現象も理由があることを意識付けして、次の水分子の極性等につなげていきたい。どんなイオンの組み合わせでも水に溶けるわけではなく、その理論は化学でないと学習しないが一般的な常識としてしっかりと身につけさせたい。

・事後指導として、実験レポートを作成するので、その際に必要な写真や動画を撮影しておく。

### 4 単元の配当計画と評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
物質と化学結合について、イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質と化学結合について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性を見いだして表現している。	物質と化学結合に主体的に関わったり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

### 5 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	重点	備考
1	イオンがどのように結合しているかについて説明する。	知	陽イオンと陰イオンは静電気力で結びつくことを理解している。
2	陽イオンと陰イオンの関係から組成式の書き方を説明する。	思主	陽イオンと陰イオンの比がどのように決まるかを考えて正しく組成式を書くことができる。
3	イオンからなる物質の性質について説明する。日常生活で利用されている物質について説明する。	知	電気伝導性やへき開について理解している。チョークや乾燥剤など様々な用途に使用されていることを理解する。
4	イオンからなる物質を用いて実験を行い、その性質を理解する。	思主	興味をもって主体的に実験を行い考察することでイオンに関する知識を高める。

6 本時の計画（4 / 4時間目）

(1) 本時の目標

身のまわりに数多くあるイオンからなる物質の性質を、実験を通して理解することにより、イオンに関する知識を高め、物質の結合を科学的に探究しようとする。

(2) 展開（評価の観点 A知識・技能 B思考・判断・表現 C主体的に学習に取り組む態度）

段階	学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
導入 10分	1 既習の内容を思い出すためウォーミングアップを行い、本時の目標を把握する。	◇陽イオンや陰イオンの種類を思い出すため、各班で復習を促す。 ◆質問に5問答える【A】（ワークシート）
「イオンからなる物質の性質を調べよう。」		
展開 35分	2 A～Cの物質について分析する。 (1) 外観を観察する。 (2) 水に溶けるか観察する。 (3) どのイオンが含まれているか考察する。 ★実験の写真や動画を撮る。	◇生徒が主体的な学習を進める手立てを助言する。 ◇発問提示の機会や方法を工夫する。
主発問：イオンの組み合わせによって、どんな変化が起こるだろうか。		
	3 どのイオンを組み合わせると沈殿ができるか考察する。 (1) グループでA～Cの組み合わせについて考える。 (2) グループごとに実験する。 (3) 多様な組み合わせがあることを実験で確かめる。 (4) 結果をもとに実験結果をワークシートにまとめる。 ★実験の写真や動画を撮る。	◇様々な意見が出るように発問を考慮する。 ◇安全に実験が行えるように配慮する。 ◇結果をしっかりとまとめられるように助言する。 ◇実験レポートの作成に向けた資料集め（タブレットの活用）を促す。 ◆実験結果をまとめているか。 [B]（ワークシート）
まとめ 5分	4 本時の学習内容を整理し、目標が達成できたかどうかを振り返る。	◆自分自身の考えをまとめているか。 自己評価を行っているか。 [C]（ワークシート）

## 保健体育科「体育」学習指導案

実施日時：令和6年10月18日(金)  
6校時

会場：本校(202教室)

クラス：2年A組(15名)

指導者名：飯田哲也、大川佳成

- 1 単元名 体育理論(運動やスポーツの効果的な学習の仕方)  
『現代高等保健体育』大修館書店
- 2 単元の目標 (1) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。  
【知識】  
(ア) では、運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること、または、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること、さらに、過度な負荷や長期的な酷使はけがや疾病の原因となる可能性があることを理解できるようにする。  
(イ) では、運動やスポーツの技術は、学習を通して技能として発揮されるようになること、また、技術の種類に応じた学習の仕方があること、現代のスポーツの技術や戦術、ルールは、用具の改良やメディアの発達に伴い変わり続けていることを理解できるようにする。  
(ウ) では、運動やスポーツの技能の上達過程にはいくつかの段階があり、その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法などがあること、また、これらの獲得には、一定の期間がかかることを理解できるようにする。  
(エ) では、運動やスポーツを行う際は、気象条件の変化など、様々な危険を予見し、回避することが求められることを理解できるようにする。  
(2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】  
(3) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組むことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】
- 3 単元設定の理由 (1) 生徒観 男子7名、女子8名の計15名の学級である。  
①主体  
技能の水準は低い、学習に真面目に取り組む、技能の上達や知識の習得を図ろうとする意欲が高い集団である。  
②知識・技能  
運動を苦手と感じている生徒が多く、身体を動かすことに苦手意識を持つ様子が多くみられる。また、基礎となる知識や技能が定着していない生徒がおり、学習を進める上での課題となっている。  
③思考・判断・表現  
発問に対して積極的な発言はあまりないが、自身の考えを文章で表現することができる生徒は多い。  
(2) 教材観  
本単元は「高等学校学習指導要領 保健体育編」の「H 体育理論 2 運動やスポーツの効果的な学習の仕方」である。本単元で学ぶ内容である、体力と技能の関わりとそれらを適切に高める必要性や、技能の型に応じた高め方があること、運動やスポーツの安全で効果的な学習の仕方などについての理解を基に、選択した運動に関する領域の学習に生かすことができるようにする必要がある。これらの学習は、卒業後においても自分に適した生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計する契機となることを期待できる。  
(3) 指導観  
本単元の指導にあたっては、運動に苦手意識を持っている生徒もそうでない生徒も、学習を通して技能の上達の段階や効果的な練習方法を理解し、他の領域においても学習した内容を生かすことができるように教材や学習形態を工夫していきたい。また、説明では視聴覚教材や映像資料などを用いて、伝えたい内容が印象深くなるように工夫を行うとともに、生徒に当事者意識をもってもらうために、発問を実際の生活につないで考えさせるような内容にしていく必要がある。同様に、ICT機器の活用により、多様なフィードバックの方法の実践や記録の集計等が用意になることから指導の際にはICTを活用させながら学習を進めていきたい。

4 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<p>①運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連しており、技能は、身長や体重などの体格や巧みさなどの体力との関連で発揮されること、運動やスポーツの技能を発揮する際には、個々の技能に関連した体力を高めることが必要になることや、期待される成果に応じた技能や体力の高め方があること、運動やスポーツを行う際、個人の体力に不適切で過度な負荷や一部部位への長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があること、また、これらを予防することでスポーツが末永く継続できることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②個々の運動やスポーツを特徴付けている技術は、練習を通して身に付けられた合理的な動き方としての技能という状態で発揮されること、技能には、クローズドスキル型とオープンスキル型の技能があること、オープンスキル型の技能は、対人的な競技などで絶えず変化する状況の下で多く発揮されること、クローズドスキル型の技能は、個人的な競技などで状況の変化が少ないところで多く発揮されること、その型の違いによって学習の仕方が異なることを理解できるようにする。スポーツの技術や戦術、ルールは、用具や用品、施設などの改良によって変わり続けていること、特に現代では、テレビやインターネットなどのメディアの発達などによっても影響を受けていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③運動やスポーツの技能の上達過程を試行錯誤の段階、意図的な調整の段階及び自動化の段階の三つに分ける考え方があること、また、これらの段階に応じて、効果的に上達を図るためには、良い動きを参考として自己の課題を設定すること、課題解決のための自己に適した練習方法を選択すること、自己観察や他者観察を通して課題を発見し解決すること、上達に応じて次の課題を設定することといった取り組み方が運動の継続に有効であること、技能の獲得には、一定の期間がかかることを踏まえ、解決すべき課題を意識した上で、繰り返し取り組むことが安定した技能の定着につながることにについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④運動やスポーツを行う際は、気象条件の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められること及び、気象条件や自然環境の変化など様々な危険を予見し回避するためには、けがや事故の防止のための対策、発生時の処置、回復期の対処などの各場面での適切な対応方法を想定しておくこと、けがや事故につながりそうな体験から行動や活動環境の修正を図ることが有効であることにについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>①運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況を関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見している。</p> <p>②運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。</p>	<p>①運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

5 単元の指導と評価の計画

- 1 時間 スポーツにおける技能と体力・・・ 【知識－①】
- 2 時間 スポーツにおける技術と戦術・・・ 【知識－②】
- 3 時間 技能の上達過程と練習（本時）・・・ 【知識③、思考・判断・表現－①】
- 4 時間 効果的な動きのメカニズム・・・ 【知識－③】
- 5 時間 体力トレーニング・・・ 【主体的に学習に取り組む態度－①】
- 6 時間 運動やスポーツでの安全の確保・・・ 【知識④、思考・判断・表現－②】

6 本時の計画（3／6時間目）

(1) 本時のねらい

技能の向上のために、フィードバックを活用することができる。

(2) 展開（評価の観点 A知識・技能 B思考・判断・表現 C主体的に学習に取り組む態度）

段階	学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
導入 5分	1 既習事項の確認をする。 ・用語の整理をする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <b>目標：運動の上達のための方法を理解する。</b> </div>	◇今までに学習してきた内容の確認をすることができるように、用語を復習し整理させる。
展開 35分	2 技能の上達過程にみられる特徴を理解する。 (1) 上達の過程にみられる3つの段階 (2) 上達の過程にみられる停滞現象  3 玉入れ技能の上達のための効果的な練習法について考える。 ・玉入れを行う。 (1) 適切な目標の設定 (2) 目標に照らしたフィードバックの活用  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <b>主発問：効果的なフィードバックの方法は何か？</b> </div>	◇上達の過程にみられる3つの段階をより分かりやすく理解させるために、映像で示す。 ◇上達の過程にみられる停滞現象を分かりやすく理解させるために、自身を例にして考えさせる。 ◇自身の変化を感じ取ることができるように、1回目は何も意識せず玉入れを行わせる。 ◇適切な目標設定を実際に活用することができるように、自身で目標を設定させる。 ◇効果的なフィードバックの方法を考えさせるために、自身の考えた方法を試させる。 ◇多様なフィードバックを行うことができるように、ICTを活用させる。 ◆自己観察や他者観察を通して課題を発見している。【A-③】（記述・観察）
まとめ 10分	4 他者の成果を参考にして、自分の考えをまとめる。 ・課題に対して適切なフィードバックの方法を考える。	◇多様なフィードバックの方法を比較することができるように、データにして示す。 ◆学んだことをもとに、課題に対して適切なフィードバックを用いようとしている。 【B-②】（記述・発言）

## 指導主事訪問（2回訪問） 研究協議会 記録

日 時	令和6年10月18日（金） 15：25～16：05	場 所	図書室
教科・科目	1年A組 言語文化	記録者	小西
出席者	（指導主事）物部 （授業者）石山 （司 会）武田 （記 録）小西 （参加者）小野寺		
<p>&lt;授業者から感想・反省&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標 作品の解釈を深めるということだったが、あまり深められなかったと思う。</li> <li>① スライドのアニメーションが現代的すぎて作品の雰囲気が変わってしまった点や、時代背景に対する理解など。探究型の部分も深まっていない。生徒は原稿を一旦提出した後時間があつたのだがその後手を加えられていない。テストがあつたこともあるが、各自が時間を使って自分のテーマをもっと深めてほしかった。</li> <li>② ICTに関してはそれぞれ楽しんで取り組んでいた。</li> <li>③ ユニバーサルデザインについてはそれほど意識していないが支援が必要な生徒がついてくることのできるようにいつも気にかけている。</li> </ul> <p>&lt;質疑&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作で扱った人物がばらばらだったが意図したのか →特にしていない。（創作の導入として）登場人物を再確認し、どういう部分が気になるかなど、文章に書かれていない部分への興味をそそるようにした。</li> <li>・スライドとドキュメントを作る際のどの程度支援したか →あらすじを再確認する意味で自分（指導者）がスライドを絵と文で作って提示し、スライドのイメージをもたせた。製作自体についてはあまり支援していない。</li> <li>・創作したストーリーに対してのアドバイスは →話の筋に対してはあまりしていないが「なぜこうなったの？」という問いかけをして考えさせた。</li> </ul> <p>&lt;指導主事から指導・助言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ユニバーサルデザインについて 授業の流れが工夫されている。生徒を観察していい形にしてほしい。</li> <li>② 探究型授業について 手立てについての議論はよくされるが、学びを深めた姿をどう設定するかが大切。ゴールをどう設定するかしっかりもってそのためのプロセスを考える。</li> <li>③ ICTについて 上手に使われており、すすんでいる。これからは教材教具の選択（紙が得意な子、タブレットの方がいい子など）生徒が選択できるようになっていく。</li> <li>④ 国語について 読む場合は読む、話す、聞くなど焦点化していく方向になっていく。</li> </ul>			

## 指導主事訪問（2回訪問） 研究協議会 記録

日 時	令和6年10月18日（金） 15：25～16：05	場 所	化学室
教科・科目	3年A組 化学基礎	記録者	佐藤
出席者	（指導主事）鈴木 （司 会）大釜 （授業者）藤田 （記 録）佐藤 （参加者）進藤、三春		
<p>&lt;授業者から感想・反省&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の前に、イオンについてのチェックテスト等を行っていたが、中間考査等で時間が空いていたので、導入時に「ウォーミングアップ」を取り入れた。</li> <li>・実験の続きを次時にしたのは、沈殿を見せたかったため。さらには、他の組み合わせの沈殿も見せたいと考えている。</li> <li>・発表に関しては、特定の生徒が多かったが、当該生徒が意欲的に取り組んでいるものを止めるのもどうかと思い、このようになった。</li> <li>・最初に目標を出すのを忘れてしまった。</li> <li>・準備していた移動式黒板の使い方を間違えてしまった。</li> </ul> <p>&lt;指導主事から指導・助言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインの観点では、授業でどこをやっているのかや色分けなど、とても工夫が感じられた。</li> <li>・探究の観点では、ペアワークを行ったり、発問に対して生徒が相談などをしながら一緒に考えていくことや、追加の質問をしながら誘導したり深めたりしているので、普段からの取り組んでいることが活かされていると感じた。</li> <li>・教師と生徒との信頼関係で成り立っている授業だと感じた。</li> <li>・生徒は「ハンコ」をもらうために一生懸命取り組んでいると感じた。</li> <li>・ICTの観点では、実験しているところを動画で記録することは一連の流れがわかるので「撮って終わり」でなく、今後に活かしていけば良いと思う。</li> </ul>			

## 指導主事訪問（2回訪問） 研究協議会 記録

日 時	令和6年10月18日（金） 15:25～16:05	場 所	202教室
教科・科目	2年A組 体育	記録者	照内
出席者	（指導主事）山崎                      （授業者）飯田、大川 （司 会）佐々木                      （記 録）照内              （参加者）湯澤		
<p>&lt;授業者から感想・反省&gt;</p> <p>（飯田）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案P7の説明について。体育理論について座学で6時間かけて学習する。運動やスポーツの効果的な学習の仕方を学ぶ単元である。このクラスは運動を苦手と感じている生徒が多い。体育の授業を通じて技能を伸ばせることを学ばせたいと考えている。</li> <li>・今回の授業では、タイムマネジメントが課題であり、間のかけ方をもう少し考えれば良かった。ねらいを達成するところに時間をかけることができなかった。その割には、シートへの記入等を見ると、生徒は知識的には理解してくれていた。</li> </ul> <p>（大川）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、初めて研究授業を行った。飯田先生にいろいろと教えて頂きながら準備した。</li> <li>・今回の授業では、リスク分散できていなかった。生徒への支援が十分にできなかった。玉入れの入力シートをもう少し工夫すれば良かった。分かりづらかったかもしれない。</li> </ul> <p>&lt;指導主事から指導・助言&gt;</p> <p>（山崎先生）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧に授業しており、生徒も楽しそうに活動していた。</li> <li>・ICTの活用の仕方としては、冒頭の動画で、先生が実際に撮影した映像であり、身近な教材であったのが良かった。育成する3つの目標があり、ICTを使うことが前提ではなく、ICTを活用したことでその目標が達成するものである。</li> <li>・授業内では、先生の方が頑張りすぎていた印象である。例えば、「技能」と「技術」の違いを説明する場面では、生徒たちに自らその違いを調べさせても良かったと思う。知識を獲得するために、ICTを自ら使うという方法でもよい。まとめのところの「フィードバック」も、生徒から引き出せれば良かった。</li> </ul>			

## 指導主事訪問（2回訪問） 全体協議会 記録

日時	令和6年10月18日（金）	場 所	商業実習室
	16:10～16:50	記録者	小野寺ゆかり
出席者	（指導主事）物部、鈴木、山崎 （司会）教頭 栗原校長、小西、石山、進藤、三春、大釜、藤田、佐々木、照内、飯田、武田、湯澤 小野寺、佐藤、大川		
<h3>3 講評</h3> <p>&lt;山崎主任指導主事&gt;</p> <p>部活動や体育的活動についてお願いがあります。高校生活は生涯にわたってスポーツに楽しむ習慣を身につける大事な時代である。体育的活動や特別活動では、内面の成長を促す活動になっているか、安全安心な活動になっているか確認しながら、学校全体で取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>高校生の健康に関するアンケート調査では、睡眠不足を感じている生徒が、男子生徒では50%以上、女子生徒では60%以上の結果となっています。また、朝食を摂らない生徒は40%を越えています。十分な睡眠と食事、そして運動により、健康を促す取り組みをお願いしたい。</p> <p>学校安全について、学校の状況や地域に合わせた訓練の実施や、全国の災害等に合わせて定期的にマニュアルを確認、マニュアルの見直しをお願いします。</p> <p>授業参観では、どの生徒も楽しく真面目に授業を受けていた。今後の進路や夢に向かって邁進できる環境作りを全体で取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>&lt;鈴木指導主事&gt;</p> <p>ユニバーサルデザインが意識された授業を展開されていました。タイマーを使って授業の見通しを立てていたり、生徒の意欲をかき立てるICTの活用がありました。今後も、このような協議会を開くことで、より充実したものになると思いますので続けていただきたいと思います。</p> <p>ICTの活用については、2つのパターンが考えられます。教師側の授業の資料として使う場合と、生徒の調べ学習の場合があります。ICT機器は、学習の過程をわかりやすく提示したり、課題を明確にすることができたり、授業の見通しを持って進めることができる。しかし、単に使うだけでなく、使う場面と使わない場面を見極めて、教科の目標が達成できるように利用する必要があります。</p> <p>生徒指導について、『こころ 姿 振る舞い さわやか高校生』運動を掲げているが、生徒達の授業を受ける姿は、顔を上げて真面目に授業を受けている様子で、非常に良い印象を受けました。</p> <p>秋田県では、9月30日現在、高校生の事故が102件。そのうち自転車通学中の事故が40%を越えています。通学時の自転車マナーや安全確認の指導をお願いいたします。また、不審者による事故は10月～11月にかけて増えます。家出や深夜徘徊については、すでに去年の件数を上回っている状況です。普段の生徒の様子をよく見ていただきたいと思います。</p> <p>&lt;物部指導主事&gt;</p> <p>校務支援システムで指導要録の確認をしましたが、ひとひとりの生徒を丁寧に書かれています。軽微な助言は、担当に伝えているので後で確認しておいてください。テスト問題では、問いの内容が生徒の思考を刺激される内容があり、とても工夫されていると感じました。</p> <p>特別支援教育については、一人一人の教育的ニーズに対応した取り組みがされていると感じました。引き続きよろしくお願ひいたします。特別支援教育では、『切れ目のない支援』がキーワードになっており、中学から高校、高校から大学・就職と、横のつながりだけでなく、地域と高校など縦の連携も重視されています。学校行事などから、縦の連携も考えられていると感じました。そして、先生方の指導については、以前まではできる先生が対応するという状況でしたが、すべての先生方に求められる資質・能力と位置づけられていますので、全体で高校生活の充実につながる特別</p>			

支援教育に取り組んでいただきたいと思います。

授業改善のユニバーサルデザインについてですが、授業の流れをしっかりと提示されていて、とても良いと感じました。ユニバーサルデザインとは、すべての生徒がわかるできることを実感できることです。今後も引き続き継続していただきたいと思います。

探究活動については、手立てについて議論されることが多いが、探究後の生徒の発言、行動がどのように変化してほしいかイメージすることで、必要とする手立ても変わってくるのではと思います。ぜひ、そのような視点で探究活動の目標を設定してみてください。

I C T活用については、今後は、生徒が学習道具を選択できる時代が来ると感じています。手書きでは難しい生徒や、機械を苦手としている生徒が、それぞれ選択できる個別の学習ができるようになると思います。

様々な生徒がいる中で、のびのびと生活していると感じました。この環境では、3年間でずいぶん成長するのではないかと感じます。引き続き暖かく見守っていただきたいと思います。

#### 4. 謝辞

1 回目の訪問から事前課題を設定し、取り組んできました。本日のご助言をうけて、今後も継続して研修テーマについて考え、生徒の指導に取り組んでいきます。今後も引き続き、ご指導・ご支援を賜りたく、西仙北高校をよろしく願いいたします。

# 実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）を終えて

教諭 飯田 哲也

## 1 はじめに

実践的指導力向上研修講座は「自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質能力の向上を図る」ことを目標に行われた。Ⅰ期及びⅡ期と2回に分けて実施され、内容としては、教科指導、生徒指導、マネジメントなど多岐にわたるものであった。

私は秋田県に採用されて8年目であり、「秋田県教職キャリア指標（教員）」では、「実践的指導力向上期」の終盤にさしかかっている。今年度は、実践的指導力向上期のまとめとして研修で学んだことを実践するとともに、実践した内容を改善し生徒への指導や校務を進めていきたいと考え研修に臨んだ。

## 2 研修内容

### (1) Ⅰ期 【6月21日 秋田県総合教育センター】

#### ①挨拶

#### ②いじめや不登校の未然防止と対応（講義・演習）

- ・いじめ問題への対応
- ・不登校の現状と理解
- ・不登校生徒への対応
- ・不登校生徒への支援

#### ③「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて

～「連携・協働」の3つの提案～（説明）

- ・コミュニティ・スクールの活用
- ・校協働活動の活用
- ・「社会教育主事」となる資格取得

#### ④養育活動全体を通じたキャリア教育（講義・演習）

- ・キャリア教育とは
- ・キャリア教育の意義
- ・キャリア教育で大切な4つの視点
- ・まとめ

#### ⑤学校組織の一員として

－自己理解に基づく目標設定－（講義・演習）

- ・学校組織マネジメントについて
- ・自分の資質能力の分析と目標設定
- ・まとめ

#### ⑥振り返り

(2) 校内研究授業【7月11日 西仙北高等学校】

- ・単元（題材）名  
現代社会と健康 喫煙，飲酒，薬物乱用と健康（飲酒と健康）
- ・ねらい  
資料をもとに，飲酒による自他の健康への影響を防ぐための考えを，説明することができる。

(3) II期 【7月24日 秋田県総合教育センター】

- ①オリエンテーション・日程説明
- ②カリキュラム・マネジメント（講義・演習）
  - ・カリキュラム・マネジメントとは
  - ・勤務校の「よさ」と「課題」を探る
- ③カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善（講義・協議・演習）
  - ・西仙北高校（保健）  
基礎学力を高める  
探究的な学びの推進（ICT活用、「西高スタンダード」等の充実）
  - ・他校A（現代の国語）  
基本的な知識・技能、探究力、協働力
  - ・他校B（電気）  
習得力、思考力、行動力、発信力
- ④カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善（まとめ）
- ⑤振り返り

### 3 おわりに

実践的指導力向上研修講座の講義や演習を通して、教科指導、生徒指導やカリキュラム・マネジメントなどについての知識を高めることができた。また、得た知識や学んだことをもとに、授業改善に取り組むことができた。現在の私は、秋田県教職キャリア指標において第2ステージの実践的指導力向上期の終盤である。今年度は分掌主任や3年担任をさせていただき、研修で学んだ「カリキュラム・マネジメント」や「キャリア教育」について考える機会が多くあった。本研修で学んだ内容を生かしながら今後も研鑽を続けていきたい。



# 高等学校 保健体育科（保健）学習指導案

令和6年7月11日（木）

5校時 13:20～14:10

1年A組4名（102学習室）

指導者 飯田 哲也

## 1 単元（題材）名

現代社会と健康 エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康（飲酒と健康）

## 2 単元（題材）の目標

- (1) 喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねることについて、理解することができるようにする。コカイン、MDMAなどの麻薬、覚醒剤、大麻、など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことを理解することができるようにする。
- (2) 喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価することができるようにする。
- (3) 喫煙、飲酒、薬物乱用の防止についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

## 3 単元（題材）と生徒

### (1) 教材観（題材観）

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康課題や健康の考え方が変化するとともに、様々な健康への対策、健康増進の在り方が求められている。したがって、健康を保持増進するためには、一人一人が健康に関して深い認識をもち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする必要がある。本単元は、喫煙、飲酒、薬物乱用などは健康や社会に大きな影響を与えることから、個人への働きかけや社会環境への対策が必要であることを理解し考えさせることができる単元である。

### (2) 生徒観

生徒は、意欲的に学校生活や学習に取り組むことができ、保健の学習においても、自分の生活を振り返りながら積極的に学ぼうとする態度が見られる。また、生涯を通じて健康に過ごしたいという健康への関心の高さも感じられる。しかし、レディネステストの結果や振り返りの記述等をみると、学習の基礎となる知識の定着不足や、知識を活用し自らの生活を改善していく能力が十分でないと考えられる。

### (3) 指導観

本単元では、生涯を通じて健康を保持増進するために、自らの健康を適切に管理することや環境を改善していくことができるようになるための資質や能力を育てたい。そのために、資料を活用して学習したことをもとに自分の考えをまとめ、ペアやグループでの話し合いや意見交換を行い、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための方法を考える学習活動を多く取り入れていきたい。また、生徒に「分かった」と実感させるために、問題解決を自ら行う活動を重視し、自分の言葉でまとめる活動を多く取り入れていきたい。

4 単元の指導と評価の計画

時	ねらい	評価規準		
	学習活動	知識・技能 (ア)	思考・判断・表現 (イ)	主体 (ウ)
1	喫煙者やその周囲の人に起こる害について、理解する。	①喫煙に関する害について、理解したことを発言したり、記述したりしている。		
	(1) 喫煙の影響を理解する。 (2) 喫煙への対策を理解する。 ①個人への対策について ②社会環境への対策について (3) 他者の意見を参考にして、自分の意見をまとめる。			
2	資料をもとに、飲酒による自他の健康への影響を防ぐための考えを、説明することができる。		①飲酒による健康への影響を防ぐための方法について、資料等で調べたことをもとに、整理したり、自分の考えを導き出したりして、それらを説明している。	
	(1) 飲酒による健康への影響を考える。 ①飲酒の健康影響 ②飲酒による社会問題 (2) 飲酒への対策について考える。 ①飲酒の開始要因 ②個人への対策について ③社会環境への対策について (3) 飲酒による自他への影響を考え、自分の意見をまとめる。			
3	薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について、理解する。			①薬物乱用について、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。
	(1) 薬物乱用の危険性について理解する。 (2) 薬物乱用の要因と対策を考える。 ①薬物乱用の要因について ②薬物乱用の個人的対策について ③薬物乱用の社会的対策について (3) 他者の意見を参考にして、自分の意見をまとめる。			
4	喫煙、飲酒、薬物乱用による影響を防ぐためにどのような行動を選択すれば良いかを考える。		②喫煙、飲酒、薬物乱用による影響について、それらに関わる事象や情報などを整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
	(1) 前時までの学習を振り返る。 (2) 喫煙、飲酒、薬物乱用についての自他や社会の課題を考える。 ①自他の課題について ②社会の課題について (3) 課題解決に向けてどのような行動をとればよいかを考え、表現する。			

5 本時の計画（2 / 4）

（1）本時のねらい

資料をもとに、飲酒による自他の健康への影響を防ぐための考えを、説明することができる。

（2）展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (教師の支援)	評価(方法)
導入 10分	1 既習事項の確認をする。 ・アルコールパッチテストを実施する。	・今までに学習してきた内容の確認をすることができるように、キーワードを与える。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目標：飲酒による健康影響を防ぐためには、どのようなことに気を付けるべきか？</p> </div>			
展開 30分	2 飲酒による健康への影響を理解する。 (1) 飲酒の影響 ①飲酒の健康影響 ②飲酒による社会問題  (2) 飲酒への対策を考える。 ①飲酒の開始要因 ②個人への対策 ③社会環境への対策	・飲酒による健康への影響は大きく二つに分類することができることを理解することができるように、導入においてあげた健康への影響を分類させる。 ・飲酒の開始要因を理解させるために、具体例を用いて説明する。 ・飲酒への対策を理解させるために、ICTを用いて説明する。	(イ) -① (観察)
	3 飲酒による自他への影響を考え、自分の意見をまとめる	・自身の体質をもとに、健康影響を防ぐための留意点をあげることができるように、アルコールパッチテストの結果を活用させる。	(イ) -① (ワークシート)
整理 10分	4 他者の意見を参考にし、自分の考えをまとめる。	・自分の考えを紹介し合わせることによって、生徒が多様な考え方に触れることができるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>飲酒による健康への影響を防ぐための方法について、自分の考えを説明している。</p> </div>			

6 協議の視点

(1) 生徒の「問い」を発する力を育成することができるような授業であったか。

(2) ねらいにせまる展開（手立て）であったか。

# 令和6年度 インターンシップ実施報告

2学年主任 佐々木 満

今年度も県内の多くの事業所のご協力を得て、インターンシップを実施することができた。近年はデジタル化の急速な進展や物価高など、企業を取り巻く社会情勢が大きく変化している。その中で、日々の業務に取り組みつつも、本校生徒を快く受け入れてくださった各事業所に大いに感謝したい。

生徒はこのインターンシップを経験することで、働くことの意義や職業についての理解を深め、今後の進路選択に反映させることができる。事前指導として、整容や「報告・連絡・相談」等のビジネスマナーの重要性を学習し、実践的な電話応対についても練習を重ねた。また事後指導としては、礼状の必要性を学び作成に取り組み、そして後輩へのインターンシップ報告会を行った。3日間のインターンシップではあったが、4月から9月までの準備や報告会も含めて、有意義なものとなった。この一連の活動を契機として、適正な進路選択や学力向上に向けた取り組みを一層進めていきたい。

また、事業所からのアンケートの内容や報告会を聞いた1年生の感想からも、このインターンシップ活動の重要性を改めて知ることができた。

- 1 実施日 令和6年7月29日（月）～8月8日（木）
- 2 参加生徒 2年生全員
- 3 実施内容

4/19	オリエンテーション、インターンシップ希望調査
5/31～6/14	個人カードと誓約書の記入、事業所調べ
6/7	事業所決定
6/7～28	依頼状、個人カードと誓約書の送付
6/28	マナー講習
7/5	インターンシップ日誌準備
7/12	事業所への電話連絡
7/26	報告書、礼状の書き方指導
<b>7/29～8/8</b>	<b>インターンシップ</b>
8/2～8/9	報告書提出、礼状送付
～9/20	レポート作成
9/27	インターンシップ報告会にてレポート発表
- 4 実施企業  
ブックスモア 大曲店  
株式会社タカヤナギ  
グローヴエンターテインメント株式会社 センテイル・ラ・セゾン千秋公園  
株式会社峰の山 グループホームみずこしの里  
株式会社アイネックス  
大仙地域子育て支援拠点施設 つなっこひろば  
ナガイ白衣工業株式会社 ソーイングセンター  
株式会社宮原組  
秋田市立新屋図書館  
マックスバリュ 刈和野店  
大仙市役所西仙北支所  
秋田トヨタ自動車株式会社 大曲店

5 生徒のレポート (抜粋)

**活動内容:**

一日目 主に本の検品や品出しをした。

二日目も主に検品や品出しをした。

三日目は、検品と本の品出しと商品に値札をはりつけた。

**など**



**活動内容**

- ・**挙式の見学**  
当日にあった本物の結婚式を見学した。
- ・**式のイメージデザイン**  
お客様に見せる式のイメージの作成。
- ・**プランナーの仕事の説明**  
大変だけど達成感がすごいなと思った。




**振り返り**

**意識してやったこと**

- ・分からないことはすぐ質問する
- ・挨拶と返事、礼だけは忘れない

**反省点**

- ・話を聞く態度
- 相手の顔を見ながら反応する

**活動を通して学んだこと**

- ・重要な役割や失敗をあまりしてはいけない仕事を任されることが多くあった。
- ・図書館では冷静に取り組むことが大事。
- ・書架整理では正確に元にあった位置に戻す。
- ・受け答えをしっかりとる。
- ・活動は意外と地道！



**活動内容**

1. 現場の見学
2. ドローンの操縦
3. 重機操作の体験
  - ★バックホウの操縦
  - ★ブルドーザーの操縦
4. 標準横断図の作成



**活動を通して学んだこと**

- ・**回転スピードや糸の締めりと縫い目の長さが違う**

家庭用ミシン	業務用ミシン
回転数(毎分) 500~900針	回転数(毎分) 1500針
貫通性 デニム地8枚くらい重ね	貫通性 デニム地12枚くらい重ね
縫い目長さ 0mm~5mm	縫い目長さ 0mm~7mm

**活動を通して学んだこと**

活動を通して学んだことは、子どもたちと遊ぶときの対応喋り方などを気をつけて自分で判断して動くことが大切



**活動内容**

**一日目**

- ・タイピング練習
- ・ホームページ支援
- ・オンライン配信
- ・動画編集

**二日目**

- ・パソコンの拭き掃除
- ・パソコンの初期化作業
- ・アプリの更新とダウンロード

**三日目**

- ・POP作成
- ・PCの組み立て

**活動を通して感じたこと**

- ・しっかり挨拶をする
- ・集中して取り組むことが大事



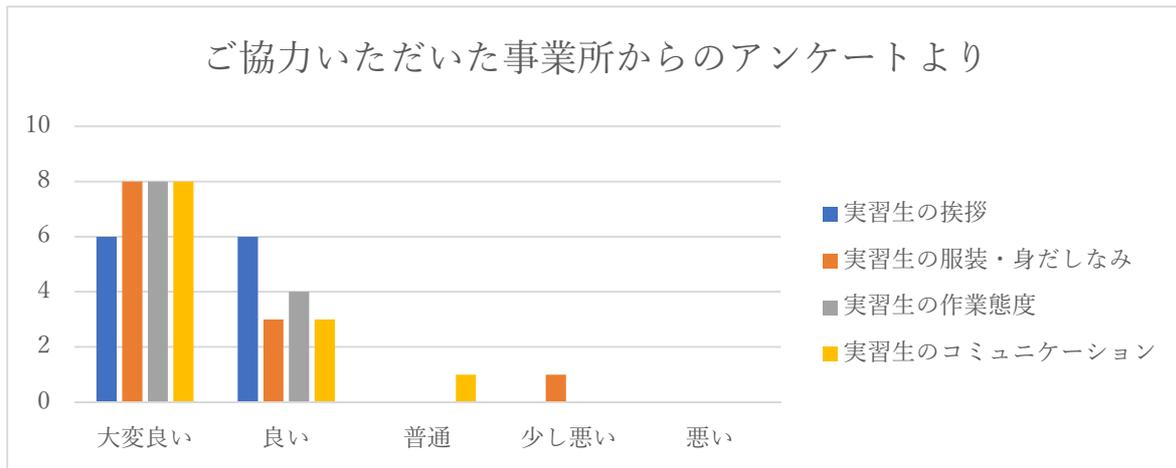
**活動内容**

- 1日目: 洗車、タイヤ交換
- 2日目: 洗車、オイル交換
- 3日目: 洗車、タイヤ交換、車検整備

**印象に残ったこと**  
車の整備ができたことと店長とドライブしたこと



## 6 事業所からの感想（抜粋）



- 今回来てくれた生徒さんは、とても真面目に頑張ってくれました。
- 一人でも、多くの方が職場体験をしてくれれば幸いと存じます。
- 介護職は若い人の力が必要なので、このインターンシップはよい機会でした。
- これから社会に出る生徒にとって、インターンシップは大切なことだと考えています。仕事とはどのようなものかを考えるよい機会かと思えます。
- 実習時期の手持ち工事の状況によりますが、ご依頼があれば積極的に受け入れたいと思います。
- この経験が、今後の進路選択に役立っていただければと思います。
- 挨拶が非常によく、意欲的に仕事に取り組んでくれてよかったです。
- ちょうど結婚式があり、見学が叶いました。生徒さんは意欲的な姿勢であり、貴重な機会をいただき感謝申し上げます。
- 現場実習は学生にとってとても貴重な体験となり、様々な企業を見るという点でも大変有意義だと思います。受け入れ側の企業としてもよい機会です。
- 来館した子どもに対しての対応を見ていると、子どもが好きということがよくわかりました。また、イベントの手伝いも相談しながら取り組む姿勢がよかったです。

## 7 報告会を聞いた1年生からの感想（抜粋）

- ◇ 写真も交えながら説明していたのでよかったです。意識していたことと反省点が分かりやすかった。
- ◇ 声の大きさが良く、分かりやすかった。将来を考えて職場を決めていた。
- ◇ 来年のインターンシップでは自分の好きなことを生かせる職場を選びたいと思った。
- ◇ 体験したことを、今の2年生のように分かりやすくまとめたい。
- ◇ 発表内容や、スライドの内容が具体的で分かりやすかった。
- ◇ 先輩の発表を聞き、来年度のインターンシップでの体験先の選択肢が増えた。
- ◇ 自分はまだ、なりたい職業が決まっていないので、早めに見つけたい。
- ◇ 先輩方は将来や興味・関心をもとにして、インターンシップ先を決めていることがよく分かった。
- ◇ その職場に行った理由や具体的にどんな活動をしたのかを詳しく紹介していたのがよかった。
- ◇ 私も、インターンシップでは将来の夢に近づける職場に行きたいと思った。
- ◇ インターンシップ先ではコミュニケーション力や、他の人の話を聞く態度をしっかりとしなければいけないと分かった。

## 特別支援に関する職員研修

「特別な支援を要する生徒への具体的な支援方法（学習、進路等）について」

記録：湯澤美千代

- 1 目的 特別に支援が必要な生徒に対する基本的な知識を学び、日頃の指導に活かす。
- 2 日時 令和6年5月16日（木） 13:30～14:30
- 3 場所 商業実習室
- 4 対象 全職員
- 5 講師 大曲支援学校 教育専門監 大川康博 先生
- 6 参加者の感想
  - ・具体的で分かりやすく、大変役に立ちました。定期的に専門家を講師に、発達障害について研修をすることは生徒と教員両者にとってとても良いと思います。
  - ・大川先生の講話を聞き、発達障害に対して、自分自身難しく考え過ぎていたなと感じました。教科指導に関しては、あれもこれもできるようにさせたいところをぐっと我慢して「ここができればよい」というポイントを絞った指導を用意していくことが、当該の生徒だけでなく、本校の生徒全体に対してもユニバーサルデザインになるのかなと思いました。その点でいけば、新学習指導要領の観点別評価の考え方が丁度良く、適切な評価になるのかなと思いました。
  - ・特別支援についての基本的な知識を学ぶことができ、大変参考になりました。この後、支援チームの方々からアドバイスをいただきながら学年の生徒を指導（支援）していく形となりますが、その前段階としてもありがたい研修内容でした。
  - ・とてもわかりやすい内容でためになりました。今までよりも、生徒のための対応方法が理解できました。ありがとうございました。



# ストレッチ講座

## 「QOL 生活の質向上」

- 1 目的 教職員の日頃の疲れを解消し仕事に精を出す
- 2 日時 令和6年12月9日(月) 13:30~14:20
- 3 場所 多目的ホール
- 4 対象 全職員
- 5 講師 西仙北高校 臨時講師 大川佳成



### 6 参加者の感想

- ・この講座は実践型でとても有意義な講座だった。始めに「無心の状態」を作り出す技法を体感し、導入の段階から興味が引き付けられた。体の力を抜くということを実感し終始リラックスして受講することができた。
- ・おでこを解すだけの簡単なエクササイズでも体の背面部分の柔軟性が急速に変化し驚いた。理論も交えながら非常にためになり、講座後は心も体もリラックスできた。
- ・体のビフォーアフターを都度確認することで柔軟性はもちろん、筋の出力にも変化が感じられマジックのようだった。
- ・自宅でもできそう、ハードルがとても低く継続できそう、部活動などの指導にも活かそう、セルフケアの重要性に気づかされたなどの声も挙がった。



# 防災に関する職員研修

記録：教頭 羽深 美希子

## 1. 実施要項

- |   |     |   |
|---|-----|---|
| 1 | 日時  | 令和6年12月20日（金） 13:30～14:30                           |
| 2 | 内容  | 防災に関する危機管理体制の確立へ向けて                                 |
| 3 | 目的  | 防災教育を進めていくための基本的知識を確認し、地域と連携した防災教育のあり方について考える端緒とする。 |
| 4 | 講師  | 秋田県防災アドバイザー 佐藤 幸嗣 氏（大曲高等学校 事務長）                     |
| 5 | 場所  | 商業実習室   |
| 6 | 対象  | 全職員   |
| 7 | その他 | 1時間の全員研修の後、防災委員会のメンバーで来年の避難訓練計画についてアドバイスをいただく。      |

## 2. 受講者の感想から

- ・私自身、防災リュック等を準備していないので、今回の研修で活動を通して考えることができた。講師の佐藤先生が話していた「災害に対する意識は絶対薄まる。研修を実施することで高めていくことが大切」という言葉が印象的でした。生徒に対しても、避難訓練だけでなく、今日のような研修や HUGやDIG、EVAGなどの防災ゲームを通して防災意識を高めたり、シミュレーションしていくと学びが深まると思いました。
- ・カードゲームを通じて、一瞬の判断が災害時は大切だと感じた。それぞれ必要な防災グッズは違うかもしれないが、被災した時は他者と協力しあう事が大切だと感じました。最後の防災委員会の話し合いが、気付かされることが多く、本当にためになりました。
- ・学んだ知識は教科指導においても必要なものであり(保健)、とても有意義なものだった。防災に関しての意識を高めるとともに、生徒にも伝えていきたいと思う。



- ・本日印象に残った言葉は「自分の命と生活は自分で守る」と「自分の命を守るために必要な物を揃える」です。自分の生活を振り返り防災への意識が低いと感じた。減災アクションカードでは瞬時の判断力が鍛えられた。非常食など食べて慣れて購入して保管を繰り返す、「ローリングストック」を親など身近な人にも話して防災意識を高め合っていく。3.11の震災から10数年...さまざまなことに直面したのにも関わらず意識が薄れていた。何度も何回も話を聞いて防災意識を高め備えていく。本日は有難うございました。
- ・防災に対する意識は、日ごとに薄れていくので、事あるごとに研修等を行い、意識を高めていくことが大切だと改めて気づきました。
- ・ゲームやスリッパ作り、保存食の試食など、初めてのことばかりでとても興味深く参加することができました。定期的に防災について研修を受けて、自分の中で風化させないよう気を付けていきたいと思いました。貴重な講話をありがとうございました。
- ・減災アクションカードゲームは、優れたゲーム（瞬間的な判断力が養える）だと感じました。今後是非、活用したいと思います。研修全体を通して、「こうでなければならない」と考えてしまいがちな防災教育について、やわらかい形でのアプローチの仕方を教えていただいたのが大変参考になりました。どんな教育活動でもそうですが、「人ごと」だと思ってしまうことは身につづらいつ感じます。そういう意味では、私たちが3.11で何をされていてどう感じたかを生徒に伝えるだけでも、生徒の意識を少しずつ変えていくことにつながるかも知れないと思いました。避難訓練について、研修後にアドバイスいただき、有り難かったです。少しずつマイナーチェンジしていくことを心がけていきたいと思いました。
- ・自助、共助、公助の具体例を教えていただき、それらの連携が不可欠であると理解しました。「うさぎ一家のぼうさいグッズ選び」や減災アクションカードゲームは英語の授業の教材となりそうで、勉強になりました。新聞紙でのスリッパ作りは実践的で、一度作ったら作れるようになる簡単さが素晴らしく、何かの時は生かしたいと思います。楽しみながら研修できました。ありがとうございました。
- ・「災害は忘れた頃にやってくる」と言われていましたが、近年はどの地域においてもいつ災害が起きてもおかしくない傾向にあります。私事ですが、今年7月に雄物川が氾濫し、自宅前の側溝から水があふれて避難指示が出ました。初めての経験に災害の怖さを感じました。自分の体験と佐藤事務長さんのお話を聞いて、さらに防災の意識が高まり「自分の身は自分で守る」を心がけたいと思います。佐藤事務長さんのお話はとてもわかりやすく大変勉強になりました。お忙しい中為になるお話をありがとうございました。
- ・普段から防災については考えていましたが、より具体的な内容、行動について新たに学ぶことができ、とても勉強になりました。防災リュックの中身についても、「私はこれが大切だと思うのに、参考とする情報内容にはない・・・」ということがあります。個人個人、必要な物が違う」との言葉に、「いいんだ!」と答えをいただけてとても良かったです。防災グッズも実際に使われた方のお話だったので、今まで考えたことがない視点を与えていただけて本当によかったです。いい研修をありがとうございました。



製作した新聞紙スリッパ

## 科目「地域探究」活動報告

地域探究推進委員

武田 隼人

### (1) 地域探究 I (1年生)

#### ① 1学期

##### 5月7日(火) 「大綱交流館訪問・見学」

大綱交流館を訪問した。国の重要無形民俗文化財である「刈和野の大綱引き」の大綱の展示をはじめ、韓国の綱引き展示も見学した。また、隣接する大綱の里伝承館に訪問し、綱づくりの作業場も見学した。その後、刈和野大綱引保存会会長の今野幸宏会長の、「刈和野大綱引きについて」の講話を聞いた。刈和野大綱引き行事の意義や歴史について深く学べた。



##### 6月25日(火) 「公文書館職員の講話」

秋田県公文書館の渡部拓先生を講師に迎え、「公文書館所蔵資料にみる西仙北地域の歴史」について学んだ。江戸時代と現在の地図を比較し、刈和野駅周辺がどのような町であったのか考察した。また、過去の新聞記事から、西仙北高校の歴史について学んだ。



## ② 2学期

### 8月27日（火） 「益満先生の模擬講義」

秋田大学教育文化学部 益満環准教授を講師に迎え、『シティプロモーションによる地域活性化』の模擬授業を実施した。秋田県や西仙北地域が抱える課題や現状をどのように捉え、地域に眠る資源や魅力をどのようにして外部へと情報発信していけばよいのかを学んだ。



### 9月24日（火） 「フィールドワーク」

益満先生の模擬講義を踏まえ、「西仙北地域の魅力を再発見する」というテーマのもと、西仙北地域のシティプロモーションに取り組んだ。生徒一人ひとりが、フィールドワークで訪問する場所を決め、当日の行動計画を立てたり、訪問先へアポイントメントの電話をかけたりと事前準備を行った。フィールドワーク当日は、以下の6か所を訪問した。

大佐沢公園	斎藤精肉店	三本杉の清水
古巣菓子店	ワインテラスかめや	和栄堂

訪問先のことを深く知ろうと、お店の人にインタビューをしたり、カメラで写真を撮ったりした。

### 11月5日（火） 「ポスター発表会」

9月24日に実施したフィールドワークをもとに、西仙北地域の魅力を発信するポスターを制作した。発表会当日は、秋田大学教育文化学部地域文化学科の益満ゼミの学生をアドバイザーとして迎えた。生徒たちは、スポット・お店を選んだ理由や紹介、ポスター制作時の工夫などを堂々と発表した。アドバイザーの学生からは、発表やポスターについて良かった点や改善点を助言してもらった。



11月13日（火） 「西仙北地域の魅力発信ポスター完成」

益満ゼミの学生からいただいたアドバイスを受け、ポスターに改善を加え、遂に完成した。西仙北地域の魅力が伝わるポスターとなった。今後、昨年度の地域探究Ⅰで現2年生が制作したポスターと合わせて西仙北高校のポスターが各所で掲示される予定である。

### ワインテラス **かめや**

・住所 → 大仙市字刈和野365  
 ・電話番号 → 0187-75-1125  
 ・営業時間 → 9:00 ~ 20:00



秋田県(初)唯一  
**コンセイエ**がいる  
 『贈る人』  
 他のお店では買けない  
 レアな情報が聞けるかも!?

---

### 大綱の響

・材料 今野商店 → 酵母  
 雄水、雌水 → 水  
 旧西仙北 → 米  
 ・販売 年3回 [2/1 7/1 12/1]  
**来年で30周年!!**



大綱の響やおすめの  
 ワインの情報が  
 たくさん載っています!!

Instagram



Facebook

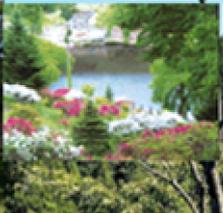


## 大佐沢公園



~展望台~

展望台の一番上まで登ると  
公園全体を見渡せる!



~記念碑~

下の方には記念碑が  
並んでいます  
→ 約100基の記念碑 →








### 斎藤精肉店

刈和野字清光院後42-18  
 ☎0178-57-0298  
 ①08:30~18:30  
 定休日 "第二木曜日"  
 ⚠️電子マネー不可⚠️  
 🍔惣菜・コロッケ・駄菓子

🌐ホームページ🌐  
 はこちら→



外側がサクサク  
 中がふわふわ  
 甘い!!  
 この**大きさ**で  
**160円!?**



## 斎藤精肉店

国産牛  
コロッケ  
160円

営業時間8:30~18:30  
 提供時間18:15  
 定休日 第2木曜日







### ③ 3学期

2月14日（金） 「課題研究の発表会」

12月から課題研究を開始した。西仙北地域や自分が生活している地域の課題解決や地域活性化をテーマにし、調査・研究を進めている。研究（仮）テーマと研究手順は以下のとおりである。

#### 【研究（仮）テーマ】

- 「祭りを活気づける」
- 「大佐沢公園復活作戦」
- 「太田には何故秋のまつりが無いのか」
- 「西仙北の少子高齢化を止めるには!？」

#### 【研究手順】

- (1) 地域の現状
- (2) 地域が抱える課題・問題点
- (3) 関連するSDGsの項目
- (4) 理想
- (5) 仮説・自分が考える解決策
- (6) 先行研究や実践事例

考えたり、調べたりした成果をGoogle スライドにまとめ、当日の課題研究の発表会を迎えた。秋田大学教育文化学部の益満環准教授をアドバイザーに迎え、発表会を実施した。

益満先生から、課題研究を進める際のポイントや各研究テーマの調査における別視点の切り口、研究の方向性などをアドバイスしていただいた。



## (2) 地域探究Ⅱ (2年生)

### ① 1学期

2年生は昨年度の学びを踏まえ、刈和野周辺地域の発展に向けた課題研究が始めた。

生徒が興味・関心のあるテーマごとにグループに分かれ、課題の発見、調査・探究活動に励んだ。今年度の課題研究のグループ分けは、以下のとおりである。

食文化グループ

自然グループ

歴史グループ

芸術・文化グループ



### ② 2学期

8月27日(火) 「課題研究」

秋田大学教育文化学部の益満環准教授を講師に迎え、課題研究を進める上でのポイントをアドバイスしていただいた。課題研究のテーマが決定し、益満先生からのアドバイスをもとに今後どのように調査を進めていけばよいのか、研究の方向性について考えた。

地域探究Ⅱの課題研究テーマは、以下のとおりである。

歴史グループ：「椒沢番楽について」

文化グループ：「読み聞かせについて」

自然グループ：「雄物川について」

食文化グループ：「地元食材を使った商品開発」



10月1日(火) 「フィールドワーク」

先日、益満先生からいただいたアドバイスをもとに、大仙市内各所を訪問し、フィールドワークを実施した。現地でインタビューをしたり、資料を読んだりすることで調査を進めた。

歴史グループ：権現堂（保存会 鎌田精孝さん取材）、大仙市アーカイブズ

文化グループ：西仙あおぞらこども園、大仙市アーカイブズ

自然グループ：大仙市アーカイブズ、大沢川樋門

食文化グループ：和栄堂、大綱の里、JA西仙北支店 西仙北営農センター

<歴史グループ>



<文化グループ>



<自然グループ>



<食文化グループ>



11月5日（火） 「課題研究の中間報告」

10月1日に実施したフィールドワークを踏まえ、課題研究の調査や実験、検討を進めてきた。この日は、秋田大学教育文化学部地域文化学科の益満ゼミの学生をアドバイザーとして迎え、課題研究の中間報告をした。生徒たちは、研究の進め方について質問したり、相談したりすることで研究の改善や方向性の修正をした。



③3学期

2月14日（金） 「西仙北地域課題研究の中間発表会」

春から進めてきた課題研究について、2年生の集大成である中間報告会を実施した。秋田大学教育文化学部の益満環准教授をアドバイザーに迎え、グループごとに研究の成果を発表した。益満先生からのアドバイスをもとに修正をかけ、3年生の最終報告会に向けて研究や調査を進めていく。2年生の課題研究テーマは以下の通りである。

【課題研究テーマ】

歴史グループ：「椒沢番楽の歴史について」

文化グループ：「読み聞かせについて～これからの時代に必要とされる、西仙北地域文化の伝え方とは～」

自然グループ：「雄物川について」

食文化グループ：「食で人々の心をつかめ！」



### (3) 地域探究Ⅲ (3年生)

#### ① 1学期

7月16日(火) 「地域探究Ⅲ発表会」

大綱交流館の大綱ホールを会場に、地域探究Ⅲの発表会を実施した。昨年から2年間かけて調査・研究・考察してきた課題について、発表した。秋田大学教育文化学部の准教授である益満環先生をはじめ、地域探究の授業でお世話になったゲストティーチャーや全校生徒に見守られ、3年生は研究の成果を堂々と発表した。今回、発表した課題研究テーマは以下のとおりである。

#### 【課題研究テーマ】

- 食グループ① : 「和栄堂とのコラボ商品を考えよう～洋菓子について知ろう」
- 食グループ② : 「和栄堂とのコラボ商品を考える～魅力あるスイーツの開発」
- 食グループ③ : 「みんなに食べてもらえるような可愛いスイーツを考える」
- 歴史グループ : 「地名と災害との関係～地名は古からのメッセージ～」
- 災害対策グループ : 「Come on Shelter～未来の避難所～」
- 文化グループ : 「亀田街道の過去・現在から未来へ」
- 産業グループ : 「強首温泉郷を盛り上げるには」



## ②2学期

8月27日(火) 「課題研究報告書の作成」

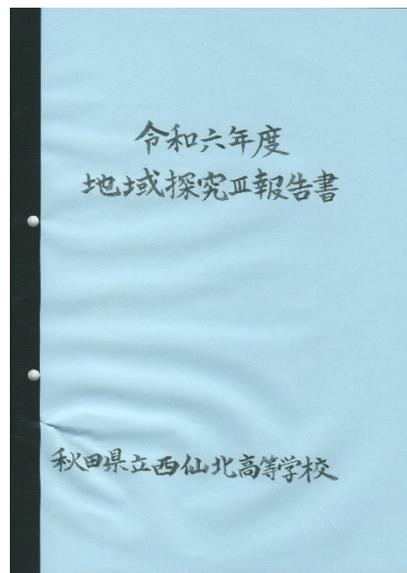
7月に「課題研究発表会」を終え、夏休み明けから報告書の作成を開始した。学校設定科目「地域探究」が始まった1期生である学年の集大成となる冊子である。2年生の地域探究Ⅱから活動してきた課題研究の成果についてGoogleドキュメントを活用し、以下のような構成でまとめていった。

そして、翌年1月に「令和六年度 地域探究Ⅲ報告書」が完成した。

### 【報告書の構成】

研究の要約

1. 研究の動機
2. 研究の調査
3. 研究の結果・考察
4. 今後の課題(まとめ)



## ③3学期

1月20日(月) 「地域探究の振り返り」

授業の総括として、地域探究の振り返りを実施した。前述の通り、今年度の3年生は地域探究が始まった学年である。教師も生徒も試行錯誤しながら進めてきた授業であり、今後の授業改善の意味を込めて、生徒から意見をもらった。

### 【地域探究を改善するアイデア】

- ・地域の方々と交流する時間の確保
- ・フィールドワーク実施回数を増やす
- ・研究する地域を広げ、比較する

### 【授業を通して身に付けた力】

- ・レポートやスライドを作成する力
- ・情報収集能力
- ・課題を発見する力
- ・計画的に物事を進めていく力
- ・人前で発表する度胸

今年度で一回りした地域探究。学習内容や進め方など課題は数多くあるが、試行錯誤を繰り返しながら3年間進めてきた。これから、学校設定科目である地域探究をよりよいものにするために、ブラッシュアップしていきたい。

2024年度 年間指導計画

教科	地域探究	科目	地域探究 I	単位数	1 単位
学級 (コース)	1A	使用教材	独自テキスト(プリント資料)		
教科の目標	・地域の文化、伝統、産業について理解を深める。 ・これからの地元の発展にとって重要と思われるアイデアについて具体的に考察するとともに、その内容を効果的にプレゼンテーションする技能を高める。 ・地域社会を支え、高める意識と能力を養う。				
科目の目標	・西仙北地域の文化、伝統、産業について理解を深める。 ・これからの西仙北地域の発展、あるいは防災にとって重要と思われるアイデアについて具体的に考察するとともに、その内容を効果的にプレゼンテーションする技能を高める。 ・地域社会を支え、高める意識と能力を養う。				
評価の観点	知識・技能(知技)		思考・判断・表現(思判表)		主体的に学習に取り組む態度(主体)
観点の趣旨	・地域の特徴や文化、伝統、産業の基本的知識を理解できる。 ・データの収集・まとめ・プレゼンテーションについての基本的な技能を身に付ける。		・地元の発展について重要と思われるアイデアについて、具体的な方策を見出す。 ・自分の考えについて適切な手段・表現を活用し、わかりやすく伝える。		・地域の文化、伝統、産業について興味を持ち、探究しようとする。 ・周囲と協力して学習活動に取り組む。

月	単元	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			主な評価規準(評価の材料等)	1A		備考										
				知技	思判表	主体		予定	実施											
4	西仙北地域の魅力・課題の発見	・地歴公民科講話(授業オリエンテーション)	授業の目的と計画を理解する。			○	・授業の目的と計画を正しく理解する。(授業状況)	11												
		・授業(西仙北地域の特徴・魅力について①)	西仙北地域の特徴を理解する。	○	○		・西仙北地域を地理的・歴史的な側面から正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)													
		・授業(西仙北地域の特徴・魅力について②)	西仙北地域だけでなく、生徒の出身地域の特徴・魅力を理解する。		○	○	・各地域の魅力を正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)													
5	西仙北地域の魅力・課題の発見	・大綱引き保存会講話(大綱引きについて①)	大綱引き行事の意義や歴史を学ぶ。	○	○		・大綱引き行事の意義や歴史を正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)				11		大綱交流館に訪問							
		・授業(大綱引きについて②)	全国にある大綱引き行事との類似点・相違点を調べまとめる。		○	○	・大綱引き行事の意義や歴史を正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)													
		・授業(地域情報の発信について①)	地域情報の発信活動の内容や、情報発信の際に配慮すべきことについて理解する。	○	○		・地域情報の発信活動の内容、配慮すべきことについて理解することができる。(課題提出)													
6	西仙北地域の魅力・課題の発見	・授業(地域情報の発信について②)	自分たちが発信すべき情報や、その手法について考察する。		○	○	・自分たちができる情報発信について主体的に考察することができる。(授業状況、課題提出)							11						
		・秋田県立公文書館畑中先生の講話(西仙北地域の歴史について①)	西仙北地域の歴史的特徴を理解する。	○	○		・大綱引き行事の意義や歴史を正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。117(課題提出)													
		・授業(西仙北地域の歴史について②)	西仙北地域の歴史的特徴を理解する。		○	○	・畑中先生の講話内容を理解した上で、秋田県内の歴史の変遷について考察することができる。(授業状況、課題提出)													
7		1学期の学習内容のまとめ	1学期の活動の振り返りと、自己評価を行う。	○	○		・1学期の活動を振り返り、適切な文章でまとめることができる。(課題提出)										11			
8	地域の魅力のプロモーション・フィールドワーク	・秋田大学益満先生による講話(地域魅力プロモーションについて)	シティプロモーションの手法とその効果について理解する。	○	○		・シティプロモーションの手法とその効果について正しく理解するとともに、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)													10
9		・西仙北地域でのフィールドワーク活動計画の作成	グループ毎に、テーマ、計画(日時・担当地区など)を設定する。		○	○	・主体的に、適切なテーマと計画を設定することができる。(授業状況、課題提出)													
		・フィールドワークの実施・写真撮影	町歩きやインタビュー、写真撮影を通じて、西仙北地域の魅力をみつける。		○	○	・他者と協力しながら適切な方法でインタビューや写真撮影を実施することができる。(授業状況)													
		・情報科による授業(プレゼンテーション)	プレゼンテーションの技法について学ぶ。	○	○		・効果的なプレゼンテーションの技法について理解し、これを活用している。(授業状況)													
10			・フィールドワークの内容のまとめ	適切な方法で、西仙北地域の魅力をまとめる。		○	○	・適切に内容をまとめ、レポートおよび写真を元にしたポスターを作成できている。(授業状況)	10											
			・フィールドワーク発表会	適切な方法で、西仙北地域の魅力を発表する。		○	○	・レポートおよびポスターをもとに、わかりやすく内容を伝えることができる。(授業状況)												
11		・調べ学習のテーマ設定	個別に、西仙北地域に関する調べ学習のテーマ設定をする。		○	○	・主体的に、適切なテーマ設定をすることができる。(授業状況・課題提出)	13												
		・情報科による授業(プレゼンテーション)	情報収集・プレゼンテーションの技法について学ぶ。	○	○		・効果的な情報収集・プレゼンテーションの技法について理解し、これを活用している。(授業状況)													
		・書籍・タブレットによる調査・まとめ	適切な方法で、テーマについて調べ、スライドにまとめる。	○	○		・地域の特徴などについて考察し、適切な方法でまとめることができる。(授業状況)													
12		レポートの作成・課題の発見	・書籍・タブレットによる調査・まとめ	適切な方法で、テーマについて調べ、スライドにまとめる。	○	○								・地域の特徴などについて考察し、適切な方法でまとめることができる。(授業状況)	13					
			・書籍・タブレットによる調査・まとめ	適切な方法で、テーマについて調べ、スライドにまとめる。	○	○								・地域の特徴などについて考察し、適切な方法でまとめることができる。(授業状況)						
	・書籍・タブレットによる調査・まとめ		適切な方法で、テーマについて調べ、スライドにまとめる。	○	○		・地域の特徴などについて考察し、適切な方法でまとめることができる。(授業状況)													
2	レポートの作成・課題の発見	・調べ学習発表会	適切な方法で、調べた内容を発表する。		○	○	・プレゼンテーションの技法を効果的に用いて、わかりやすく内容を伝えることができる。(授業状況)							13				2年生・職員への発表、益満ゼミ生来校		
		・発表会の振り返りとデータ修正	発表会で受けたアドバイスをもちに、スライドのデータを修正する。	○	○		・スライドのデータを適切に修正することができる。(授業状況)													
		・今年度の活動の振り返り	今年度の活動の感想と、自己評価を行う。		○	○	・適切に今年度の学習内容をまとめ、自己評価を行うことができる。(課題提出)													
3	レポートの作成・課題の発見	・講話(「地域探究 II」コース選択について)	来年度の「地域探究 II」の概要とテーマ設定について理解する。	○	○		・授業の概要とテーマ設定について正しく理解する。(授業状況)		13											
		・調べ学習のテーマ設定	個別に、西仙北地域に関する調べ学習のテーマ設定をする。		○	○	・主体的に、適切なテーマ設定をすることができる。(授業状況・課題提出)													
		・今年度の活動の振り返り	今年度の活動の感想と、自己評価を行う。		○	○	・適切に今年度の学習内容をまとめ、自己評価を行うことができる。(課題提出)													

2024年度 年間指導計画

教科	地域探究	科目	地域探究Ⅱ	単位数	1単位
学級 (コース)	2A	使用教材	独自テキスト(プリント資料)		
教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の文化、伝統、産業について理解を深める。</li> <li>・これからの地元の発展にとって重要と思われるアイデアについて具体的に考察するとともに、その内容を効果的にプレゼンテーションする技能を高める。</li> <li>・地域社会を支え、高める意識と能力を養う。</li> </ul>				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西仙北地域の、さまざまな分野における特徴についてグループ別活動を通じて理解を深める。</li> <li>・これからの西仙北地域の発展にとって重要と思われるアイデアについて具体的に考察するとともに、その内容を効果的にプレゼンテーションする技能を高める。</li> <li>・地域社会を支え、高める意識と能力を養う。</li> </ul>				
評価の観点	知識・技能(知技)		思考・判断・表現(思判表)		主体的に学習に取り組む態度(主体)
観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西仙北地域のさまざまな分野の特徴に関する知識を理解できる。</li> <li>・データの収集・まとめ・プレゼンテーションについての技能を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西仙北地域の発展について重要と思われるアイデアについて、具体的な方策を見出す。</li> <li>・自分の考えについて適切な手段・表現を活用し、わかりやすく伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西仙北地域の特徴について興味を持ち、探究しようとする。</li> <li>・周囲と協力して学習活動に取り組む。</li> </ul>		

月	単元	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			主な評価規準(評価の材料等)	2A		備考
				知技	思判表	主体		予定時数	実施時数	
4	コース別課題研究①	授業オリエンテーション	授業の目的と計画を理解する。			○	・授業の目的と計画を正しく理解する。(授業状況)	9		
		コース別課題研究のテーマ・計画決め	コース毎にテーマを設定し、そのためにどのような具体的活動をするのかを決める。	○	○	○	・主体的に、適切なテーマと計画を設定することができる。(授業状況・課題提出)			
		コース別課題研究	計画に従って、探究活動を行う。	○	○	○	・他者と協力しながら、主体的な活動ができています。活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)			
		コース別課題研究	計画に従って、探究活動を行う。	○	○	○	・他者と協力しながら、主体的な活動ができています。活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)			
8	コース別課題研究②	益満准教授からのアドバイス(探究活動の方向性について①)	研究テーマおよびその方向性について説明し、アドバイスをいただく。	○	○	○	・自分たちの研究活動の現状について意見を頂き、今後の自分たちの活動に反映させることができる。(課題提出)	8		益満准教授来校
		コース別課題研究	計画に従って、探究活動を行う。	○	○	○	・他者と協力しながら、主体的な活動ができています。活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)			
		フィールドワーク計画の決定	フィールドワークでどこを訪問し、どのような具体的活動をするのかを決める。	○	○	○	・主体的に、適切な活動計画を設定することができる。(授業状況・課題提出)			
		フィールドワーク	フィールドワーク計画に従って、調査活動を行う。	○	○	○	・探究活動の趣旨に沿った活動ができています。活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)			
11	コース別課題研究③	益満ゼミ生からのアドバイス(探究活動の方向性について②)	研究テーマおよびその方向性について説明し、アドバイスをいただく。	○	○	○	・自分たちの研究活動の現状について意見を頂き、今後の自分たちの活動に反映させることができる。(課題提出)	13		益満ゼミ生来校
		課題研究の中間報告準備	適切な方法で、自分たちの活動内容をまとめ、発表の準備をする。	○	○	○	・自分たちの活動内容を考察し、適切な方法でまとめることができている。効果的なプレゼンテーションの技法を活用している。(授業状況)			
		課題研究の中間報告準備	適切な方法で、自分たちの活動内容をまとめ、発表の準備をする。	○	○	○	・自分たちの活動内容を考察し、適切な方法でまとめることができている。効果的なプレゼンテーションの技法を活用している。(授業状況)			
12	コース別課題研究③	課題研究の中間報告準備	適切な方法で、自分たちの活動内容をまとめ、発表の準備をする。	○	○	○	・自分たちの活動内容を考察し、適切な方法でまとめることができている。効果的なプレゼンテーションの技法を活用している。(授業状況)			
		課題研究の中間報告準備	適切な方法で、自分たちの活動内容をまとめる。	○	○	○	・自分たちの活動内容を考察し、適切な方法でまとめることができている。効果的なプレゼンテーションの技法を活用している。(授業状況)			
1	コース別課題研究③	課題研究の中間報告準備	適切な方法で、自分たちの活動内容をまとめ、発表の準備をする。	○	○	○	・自分たちの活動内容を考察し、適切な方法でまとめることができている。効果的なプレゼンテーションの技法を活用している。(授業状況)			
		課題研究の中間報告準備	適切な方法で、自分たちの活動内容をまとめる。	○	○	○	・自分たちの活動内容を考察し、適切な方法でまとめることができている。効果的なプレゼンテーションの技法を活用している。(授業状況)			
2	コース別課題研究③	課題研究の中間報告準備	適切な方法で、自分たちの活動内容をまとめる。	○	○	○	・自分たちの活動内容を考察し、適切な方法でまとめることができている。効果的なプレゼンテーションの技法を活用している。(授業状況)			在校生、職員への発表、益満ゼミ生来校
		コース別課題研究中間報告会	適切な方法で、調べた内容を発表する。		○	○	・プレゼンテーションの技法を効果的に用いて、わかりやすく内容を伝えることができている。(授業状況)			
3	コース別課題研究③	今年度の活動の振り返り	今年度の活動の感想と、自己評価を行う。	○	○	○	・適切に今年度の学習内容をまとめ、自己評価を行うことができる。(課題提出)			

30 0 0 0

2024 年度 年間指導計画

教科	地域探究	科目	地域探究Ⅲ	単位数	1 単位
学級 (コース)	3A	使用教材	独自テキスト(プリント資料)		
教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の文化、伝統、産業について理解を深める。</li> <li>・これからの地元の発展にとって重要と思われるアイデアについて具体的に考察するとともに、その内容を効果的にプレゼンテーションする技能を高める。</li> <li>・地域社会を支え、高める意識と能力を養う。</li> </ul>				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西仙北地域の食・文化・産業・歴史・災害対策についてコース別活動を通じて理解を深める。</li> <li>・これからの西仙北地域の発展、あるいは防災にとって重要と思われるアイデアについて具体的に考察するとともに、前年度の成果と反省を踏まえつつその内容を効果的にまとめ発表する技能を高める。</li> <li>・地域社会を支え、高める意識と能力を養う。</li> </ul>				
評価の観点	知識・技能(知技)	思考・判断・表現(思判表)		主体的に学習に取り組む態度(主体)	
観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の「食」、「文化・産業」、「歴史・防災」の知識を理解できる。</li> <li>・データの収集・まとめ・プレゼンテーションについての技能を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の発展について重要と思われるアイデアについて、具体的な方策を見出す。</li> <li>・自分の考えを適切な手段・表現を活用し、わかりやすく伝える。</li> <li>・適切に研究内容をまとめ、レポート等を作成できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の「食」、「文化・産業」、「歴史・防災」について興味を持ち、探究しようとする。</li> <li>・周囲と協力して学習活動に積極的に取り組む。</li> </ul>		

月	単元	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			主な評価規準(評価の材料等)	1A		備考			
				知技	思判表	主体		予定 時数	実施 時数				
4	コース別課題研究①	授業オリエンテーション	授業の目的と計画を理解する。			○	・授業の目的と計画を正しく理解する。(授業状況)	11					
		コース別課題研究	計画に従って、探究活動を行う。	○	○	○	・他者と協力し前年度の活動を踏まえながら、主体的な活動ができている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)						
5	コース別課題研究	計画に従って、探究活動を行う。	○	○	○	・他者と協力し前年度の活動を踏まえながら、主体的な活動ができている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)							
6	課題研究の報告準備	効果的な発表ができるよう、適切な方法で準備を行う。	○	○	○	・他者と協力しながら、活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)							
7	課題研究の報告準備	効果的な発表ができるよう、適切な方法で準備を行う。	○	○	○	・他者と協力しながら、活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)							
	課題研究発表会	適切な方法で、調べた内容を発表する。	○	○	○	・プレゼンテーションの技法を効果的に用いて、西仙北地域のためのアイデアをわかりやすく伝えることができる。(授業状況)	アドバイザー来校						
8	中間報告会の振り返り	中間報告会の感想をまとめ、自己評価を行う。	○	○	○	・発表会での評価やゲストの方々からのアドバイスをもとに、プレゼンテーションの改善や探究活動の内容について建設的な話し合いをしている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)							
9	課題研究のまとめ	課題研究活動の内容についてまとめ、レポート等を作成する。	○	○	○	・他者と協力しながら、活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)							
10	コース別課題研究②	課題研究のまとめ	課題研究活動の内容についてまとめ、レポート等を作成する。	○	○	○	・他者と協力しながら、活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)				11		
11	課題研究のまとめ	課題研究活動の内容についてまとめ、レポート等を作成する。	○	○	○	・他者と協力しながら、活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)							
12	課題研究のまとめ	課題研究活動の内容についてまとめ、レポート等を作成する。	○	○	○	・他者と協力しながら、活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)							
1	今年度の活動の振り返り	適切な方法で、自分たちの活動内容をまとめる。	○	○	○	・適切に今年度の学習内容をまとめ、自己評価を行うことができる。(課題提出)							
2							2						
3													

## 編集後記

今年度の本校の新入生は4人と非常に少なく、今までにない状況が様々な場面で発生した1年でした。生徒たちは一人一人の役割がとても多く、かなりの負担がかかっております。そして、それは教職員も同様です。教員が一人しかいない教科が多く、全校分の科目の考査を作成、採点し、授業ごとに全員の評価をしていかななくてはなりません。さらには一人の教員がいくつもの分掌を担っている状況です。

その中で、今年度も教員全員を対象とした公開授業や様々な職員研修を実施いたしました。本校のテーマは「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業です。我々の研修も「主体的で深い」ものであったのか、そのためにはどのような環境であるべきか、振り返る必要があるかと思えます。生徒は「主体的に学習に取り組む態度」を求められています。それならば、教員である我々が「主体的に業務に取り組む態度」を示す必要があると考えます。学習に取り組む前提として、「学習環境」が重要であることは論を俟たないでしょう。そしてその学習環境を整えることも主体的であるべきです。同様に、業務に取り組む前提として「業務環境」は重要です。その業務環境を主体的に整える我々の姿が、生徒にとってのロールモデルとなるのではないのでしょうか。

「本当に」お忙しい中、今年度の研修を支えていただきました皆様、そして寄稿していただきました先生方、発刊に御尽力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

令和7年3月 研修部

令和6年度 研究紀要「北の沢」

令和7年3月 発行

発行者 秋田県立西仙北高等学校

編集 秋田県立西仙北高等学校研修・情報部